

兼帯子塚村庄屋

惣左衛門

円谷甚左衛門

御奉行所江巻通

郡御奉行所江巻通

御代官所江巻通

〔中町 円谷重夫家文書〕

一札如件

天明八年

地主

申二月

五郎兵衛[㊦]

立合

金 蔵[㊦]

御役元

〔三城目 加藤忠一家文書〕

八三〔天明八年三城目村の長々の余地についての一札〕

八四〔嘉永五年二月大畑村もり子塚田にならず一札〕

「 天明八年

「 嘉永五年二月

指上申一札之事

一札之事

指上申一札之事

一札之事

一此度貞四郎家敷巻軒長々余り地ニ相成居候所御役元御了簡之上右家敷巻軒之内半軒ニ仕残り半軒中沖戸畑ニ而御評議之上替地ニ指出候ニ付右巻軒半私持分ニ致家普請仕申候上ハ何方より故障筋御座候而も御役人中御立合被下候上ハ実正明白ニ御座候万一半軒私所持仕兼候節ハ浦間口ニ而巻畝拾五步切渡し申答ニ相定メ申候為後日右取替

右者字もり子塚畑方有之場所村方御相談之上私義田所ニいたし候然ル上者当子より未迄八穂私作申年より村方へ差出可申候若水続不申田地ニ相成兼候ハ、右之場所村方へ差出可申候尚又年限中畑方上納儀者年々相納可申候右郷約束相違無御座候為後日如件
但し無仕付之年有之候ハ、夫丈年延之事

嘉永五年二月

賀 市 ⑩

御村方

〔大畑 青木政義家文書〕

御差出被成候旨右之条々熟談仕候上ハ双方より故障等無
御座候依之為取替証文仍如件

文久三癸亥年八月

田方地割惣代

八五〔文久三年八月 三城目村新田取替の一札〕

「 文久三年八月

為取替申一札事

」

為取替申一札事

一貴殿方ニ而村方改革中字江添新田古来より持来居候分其
節証文等茂無之候ニ付村方繩引帳江取詰候趣ヲ以此度証
抛見当候付相戻し呉候様御掛合御座候処私共上ニ而改革
中立入不申何等之義も不相訳候付何分取計兼候義ニ御座
候然ル処双方彼是申出候而者終御上様江御訴筋ニも可相
成哉も難計双方心配仕候ニ付右ニ付古川式之内四畝歩六
ヶ年之内村方より附遣し置可申段及談事候処此度之儀先
ツ双方共熟談仕候処相違無御座候勿論貴殿方ニ而右年限
中村方へ談方行届候ハ、何れニ茂可仕候猶証書者役元へ

菊 弥 ⑩	長百姓	鶴 吉 ⑩	直右衛門 ⑩	庄 三郎 ⑩
由 太 郎 ⑩		榮 藏 ⑩		
組頭		拾 藏 ⑩		
庄 助 ⑩		定 吉 ⑩		
多 十 郎 ⑩		乙 吉 ⑩		
金 藏 ⑩		松 ⑩		
吉右衛門 ⑩				

伊藤喜惣治殿

同 亀太郎殿

表書之通承知候ニ付印形差加申候以上

庄屋

矢吹千代太郎 ⑩

〔大畑 伊藤光之祐家文書〕

八六〔年不詳明岡村より中野目村との地境の件で口上

書〕

被遊被下候へ、難有奉存候以上

七月十七日

明岡村庄屋

乍恐以口上書申上候事

次右衛門

組頭 徳兵衛

乍恐以口上書申上候事

同 伝兵衛

一 式拾貳年以前本多下野守様御代当村ニ荒畑御座候ニ付改

御代官所様

申候へハ三丁四反歩御座候此畑高を御引被下候様ニと願

下ヶ紙

上ヶ申候へハ郡奉行衆御意被成候へ左様之事ハ何れ村ニ

〔川合治郎右衛門殿

も可有之候間畑高引遣儀ハ不罷成候切替ニ仕候へと被仰

桑本 金平殿

付子丑兩年ニ明代きつね平と申所ニ而畑を開式拾貳年以

〔中町 円谷重夫家文書〕

来作り来り申候事

一 式拾三年以前亥ノ秋開申候新田三反式畝廿七歩之内式畝

八七〔寛永十年矢吹村新田之掟〕

歩切替願上ヶ拾九年以前卯ノ年当村池代之内ニて切替仕

一 田畠土之上中下窓百姓無甲乙割府仕開可申候付前々より

作来り申候事

一 来隣郷之山野無相違入可申事

一 当月二十日ニ中ノめ村池下明岡新田村ノ田へ中ノめ村之

一本田を相捨新田江出間敷事

者竿入申候同九日十日ニハ中ノめ村之者私共方へ何の断

一新田之諸役御用捨之事

も無之右之切替の田畑并本畑へも三ツ塚と申処迄竿入検

右之条々々可相守者也

地仕候事

寛永十年霜月朔日

鈴木九郎右衛門 吉 花押

右之通其様偽り不申上候人数廿二人ニて我がまゝに明岡村

丹羽庄兵衛 容 花押

地内へふみこみ検地仕候ニ付乍恐口上書を以申上候御了簡

大谷志摩守 二 花押

丹羽伊豆守 正 花押

矢吹村 惣左衛門

□ □

八八〔元禄六年七月中畑村新田帳〕
(表紙)

「 元禄六年

一 矢吹村開発以後新田開之永々奇持之事ニ候殊ニ旧家之其

方義達御聞此度為御褒美海道筋兼目附役年寄地主庄屋申

付候依之至末之苗字帶刀申渡候

暑寒御伺等ニ可罷出候

一 至末之難波難叶□□ハ、是又時々領主江右段訴可出候

右之条々無相違可相守者也

中畑村 新田帳
西七月

寺山

一下田老反三畝三步 七左衛門

同所

一下田老反三畝三步 長左衛門

上川田

一下田三畝九步 七左衛門

同所

一下田三畝拾式步 長左衛門

下川田

一下田九畝步 七左衛門

下田^④反老畝式拾七步

分米^④四石六斗九合

右新田庄屋地主致案内相改之候以上

元禄六癸酉七月

藤川清左衛門^④

寛永十一年正月 日

鈴木九郎右衛門 花押

丹羽庄兵衛 花押

大谷志摩守 花押

浅尾数馬助 花押

丹羽伊豆守 花押

矢吹□

□ □

惣^(左)□衛門

□ □

〔本町 会田宗太郎家文書〕

中辻善四郎[㊦]
 本日佐右衛門[㊦]
 井関弥五作[㊦]
 福田彦右衛門[㊦]

右者先代見取新田当西より新田高ニ改之間年貢米可納所者也

竹田市郎兵衛[㊦]
 林甚五左衛門[㊦]
 中畑村
 庄屋
 百姓

〔中畑 岡崎長成家文書〕

八九〔元禄八年十月中畑村亥之改新田覚〕
 一 元禄八年十月

亥之改新田覚

亥之改新田覚

中畑村

かうし

一下々田六畝拾七歩
 分米五斗五升八合
 反八斗五升代

右新田庄屋地主致案内相改候以上
 元禄八年亥十月
 井関弥五作[㊦]
 本間弥兵衛[㊦]

右之通当亥年より可納所者也

竹田市郎兵衛[㊦]
 林甚五左衛門[㊦]

〔中畑 岡崎長成家文書〕

九〇〔天明四年辰正月 三城目村荒畑打起反別帳〕

〔表紙〕
 一 天明四年 三城目村

荒畑打起反別帳

辰正月

〔作表〕

地名	番号	広サ		備考
		長	横	
寺ノ前	一	三三・〇〇	三・六〇	
同	二	三三・〇〇	三・六〇	
同	三	三三・〇〇	三・六〇	

候尤開免之内本田統ニ而老反歩当村益ニ相除キ遣申候筈
ニ相極メ申候然ル上ハ

御上江御願申上御見分之上被仰付次第御年貢米金之儀ハ

当村江御上納可被成候為後日

一札仍而如件

自川領三城目村長百姓

天明七末年二月

名右衛門[㊦]

同 兵右衛門[㊦]

同村組頭 長左衛門[㊦]

同 喜惣兵衛[㊦]

同 十左衛門[㊦]

庄屋 伊藤十郎次[㊦]

高田領中野目村

円谷甚左衛門殿

〔中野目 円谷善人家文書〕

九二〔寛政三年高田藩領三城目堤両村川欠立帰書上〕

覚

川前

中野目村

一上畑老畝拾五歩

西道代 源 六

分米老斗式升八合

同所

同断

一中畑式畝式歩

源 太

分米老斗四升五合

同所

同断

一中畑老畝式拾七歩

万右衛門

分米老斗三升三合

同所

西川欠

一上畑老畝歩

善 太

分米八升五合

畑六畝拾四歩

分米四斗九升老合

右之通川欠不立帰分書上申処相違無御座候

寛政三亥年七月

中野目組同村組頭

平右衛門

大庄屋

円谷甚左衛門

覚

小川根

中野目組同村

一上田貳拾七步四厘

分米壹斗三升貳合

同所

一七中田三畝三步

分米壹斗四升三合

同所

一下田貳拾四步

分米八升八合

同所

一下々田壹畝九步

分米壹斗壹升

一下畑貳畝步

分米壹斗壹升

田畑ノ六畝三步四厘

分米五斗八升三合

万引之内川欠砂入分不残起返リ

川前

一上田壹畝三步六厘

分米壹斗六升八合

同所

一上畑九畝五步

分米七斗七升九合

田畑ノ壹反八步六厘

分米ノ九斗四升七合

或改古川欠砂入不残起返リ

分米惣ノ壹石五斗三升 当亥年立帰リ

右之通古川欠砂入引之分当亥年不残立帰ニ付書上申所相違

無御座候以上

亥ノ七月

中野目村組頭

平右衛門

大庄屋

円谷甚左衛門

覚

中野目組 堤村

一上田六畝拾五步

分米九斗七升五合

一中田三畝步

分米三斗九升

一下田貳畝五步

分米貳斗三升八合

田ノ老反老畝貳拾歩

分米ノ老石六斗三合

戊改古川欠砂入引不殘立掃リ

一上田三畝貳拾四歩

分米五斗七升

一下々田老畝拾六歩

分米老斗三升

田ノ五畝拾歩

分米ノ七斗

但万引之内山崩川欠分不殘立掃

分米惣ノ武石三斗三合

当亥年立掃

ノ

右之通古川欠砂入引之分当亥年不殘立掃候ニ付書上申処相

違無御座候以上

寛政三年亥七月

組頭

太 七

大庄屋

巴谷甚左衛門

〔中野目 巴谷善人家文書「御用書留帳」抜出〕

九三〔文化十四年三月 三城目村開発年季之事〕

「 文化十四年三月

開発畑年季之事

」

開発畑年季之事

一拙者持分之貞六水呑畑中川原ニ而三反歩年追永荒ニ罷居

候処相談之上当丑年より貳拾ヶ年季ニ相定打起手入致具

申候筈ニ相定申候所実正ニ候座候右地面ニ付何方より違

乱申者有之候共貴殿江難渋相掛不申拙者方ニ而急度取訳

可申候尤御年貢之義者当丑より四年過巳年より年々七百

五拾文ツ、貴殿方江相納可申候右相定之通貳拾ヶ年相過

候ハハ前書之地面不殘私方へ相戻可申候為後証仍而如件

文化十四年

畑主

丑三月

伊藤与惣兵衛

立合 三九郎

同 伝 藏

起人

重藏殿

〔大池 伊藤光之祐家文書〕

九四〔文政二年卯十一月 大畑村年々起返別相調帳〕

(表紙)

「 文政二年

石川郡

年々起返反別相調帳

卯十一月

卯左衛門

覚

石川郡大畑村

申年

字かけ下

一下々田式反五畝式拾六步

内

耆反五畝式拾六步

長右衛門

耆反步

儀 八

酉年

字同所

一下々田式反五畝拾耆步

内

かけ下

耆反五畝步

嘉兵衛

同所

耆反拾耆步

市郎兵衛

戌年

字後

一中田耆反六畝拾三步

内

後耆反步

松右衛門

同所六畝廿三步

富 八

戌年御手当金

一耆町式反五步

内

五左衛門

中田式反三畝步

富 八

かけ下

下田式反步

栄治郎

同所

下田耆反七畝步

弥惣右衛門

大蔵山

下々田式反步

長治右衛門

大蔵山

下々田式反步

平 吉

第4編 近世

大藏山

下々田老反五畝歩 儀 八

大藏山

下々田老反歩 長右衛門

子年

字たら坊

一中田老反五畝歩 市郎兵衛

一上田老反廿歩

内

五左衛門

五畝式拾歩 長右衛門

同所

五畝歩

嘉兵衛

子年

字後

一下々畑式反畝歩

平吉

丑年

字松ノ木内

一上田老畝歩

金石衛門

丑年

字地藏前

一下々畑三反歩

市郎兵衛

寅年字同所

一中田六畝歩

弥惣右衛門

卯年

字同所

一中田四畝歩

弥右衛門

卯ノ年松ノ木内

一上田老畝歩

弥五右衛門

右之通起返調書上申処相違無御座候以上

文政二年

卯十一月

卯左衛門

真水徳右衛門殿

辰ノ年

地藏前

一上畑三反五畝歩

同松ノ木内上

一上畑式反歩

同前久保

一下々畑卷反歩

同後

一下々畑卷反五畝歩

ノ高五石五斗五升

〔大畑 青木政義家文書〕

九五〔嘉永六年二月大畑村差出申一札之事

〔荒地場所田所ニ仕候ニ付当丑年より寅年迄拾四穂

私方ニ而作卯年より村方へ差出約束〕

「 嘉永六年二月

差出申一札之事

┌

差出申一札之事

右者此度御村中相たん之上らんと前畑方あれ地場所田所ニ仕候ニ付当丑年より寅年迄拾四穂私方ニ而作卯年より御村方江差出可申筈御約束相違無御座候為後日仍而如件

嘉永六丑年二月

居村

賀市

御村中

〔大畑 青木義家文書〕

九六〔嘉永六年七月 須乘新田村栄之助より為取替一札

之事〕

「 嘉永六年七月

為取替一札之事

┌

為取替一札之事

一 貴殿御持分原池下新田荒地御座候処来寅より丑迄拾貳ヶ年之内無年貢夫過候ハ、御見分之上相当之御年貢ヲ以私一代相作申候様御約束ニ而起申候処相違無御座為後日一札仍而如件

嘉永六丑七月

須乘新田村

栄之助㊦

大畑村

立会人

安之助㊦

大畑村

青木柳蔵殿

〔大畑 青木政義家文書〕

九七〔卯九月三城目村差上申御請書之事〕（字陣ヶ岡前

三ヶ所文化十一年改見取田畑壹町五反式畝歩之内當

卯起返り高三石三斗）

差上申御請書之事

字陣ヶ岡前三ヶ所文化十一戌改見取田畑壹町五反式畝歩之

内當卯起返り

一高三石三斗

此反別下田三反歩

字貝ヶ淵寛政三亥砂入引高四拾三石四斗四升三合之内

一畑三反歩

庄兵衛

勘兵衛

平左衛門持

字淀ノ目

一畑五反歩

戸左衛門

庄兵衛持

字折口

一畑壹反歩

七左衛門持

字清右衛門橋方引高百貳拾壹石四斗三升九合之内

一畑壹反歩

猶吉持

字ノ切下酉改古水損地

四拾四石三斗七升八合之内

一畑三反式畝歩

六人持

字鶴巻田右同断

一田貳反歩

太左衛門

徳兵衛持

中 断

右者此度御損地為御改被成御越候ニ付夫々御案内申上書面
之通御見分被成下難有承知仕候右之外見取場起返り地新田
開発等少も無御座候万一隠置後日相顯候ハ、地主者勿論庄
屋組頭長百姓等如何様之越度ニ茂可被仰付候為後日之一札
差上申候以上

卯九月

三城目村長百姓

半右衛門

同 直 吉

組頭 伝 六

同 久 兵 衛

同 三 九 郎

庄屋 伊藤与惣兵衛

大高与一兵衛殿

宮沢 林兵衛殿

九八〔文政六年二月 七軒新田入百姓入目渡方帳〕

〔表紙〕

「 文政六年 白川郡七軒新田

七軒新田入百姓入目渡方帳

未 二月吉日

兼帶

岡崎長左衛門

寛政八九辰巳川欠引之内

乍恐以書付

」

一下田七反歩

戊午見取地

内

式反歩 水引届兼候ニ付畑ニ仕置候分

残り五反歩 田所

六月廿七日夕より廿八日昼迄
一百廿八文 三賄

此内三反歩 起返り地ニ奉願上候

同廿八日兩人五両御金下被候節
一百五十八文 浅川酒肴代

右者当村川欠之場所五反歩之内三反歩起返り地ニ被成下

置度奉願上候相残り式反歩之所ハ日損年ニハ水行渡かね

候水損之節ハ水支ニ而実法無之場所ニ付何卒前書之通三

反歩此度起帰り地ニ被成下置度奉願上候右願之通被仰付

被下置候ハ、重々難有仕合奉存候以上

同日 一百七十八文 酒醬油代

卯九月

三城目村祖頭 伝 六

同 久兵衛

同 三九郎

外丁三百文 拾軒七軒

庄屋 伊藤与惣兵衛

〔大池 伊藤光之祐家文書〕

同七月廿二日 暑中御差出分 根宥金仕

泉崎富久保園三郎同所との入

十蔵前山山境塚築申候

一 式百八十八文
右同断御指帳御渡
一 五百文
右同断雉子二羽代

当村より鍋内竜蔵原文右衛門平鉢寅吉喜衛門長十外二人足

一 式百六十文
二月廿日又右衛門廿二日三日小夫

藤七甚之助万太金吾長左衛門メ拾人泉崎より庄屋吉左衛門

一 四百式十文
右同断雑用七賄分

周三郎十蔵組頭八人長百姓拾人足拾式人メ三拾式人

一 丁三百拾八文
去年金子年番一日方諸入用不足分

右二付

一 四百八拾文
未春永式文懸リ

一百廿五文 品々小物代白米尅升代五十文

一 式分式朱ト永一日廿尅文三分未春より納分

一 酒式百文 是ハ松倉よりかり

小以メ尅兩尅分式朱ト百三十八文

メ三百七五文書出

一 五百文
賄番割

覚

一 尅分也
新屋相掛分

七軒新田

一 三百文
役所向三度入用

右付上納諸品入用之覚

メ尅兩三分百三十八文

亥御検見永式朱分懸リ

一 式朱分丁三百四十五文引替

三月二日

一 式分也 午十月上納分

尅分式朱崩し

一 尅兩也 午十一月上納

覚

小以尅兩式分内三分組被下置相成候

尅分ニ尅貫六百廿四文

一 丁三百五十九文 午十二月年番わり

一 金式分也 元メ様

一 百廿八文 未二月廿八日より同廿九日迄御用小夫

一 同式分也 堀口様

一 式百四十文 右同断雑用分

一 五百文 池田様

一三百文 庭井様

一五百文 松沢様

一貳百文 月岡様

一三百文 年番所

一百文 酒代

一百文 さかな代

一百文 年番所奉仕兩人へ

ノ老兩貳貫百文

金ニノ老兩老分ト四百七拾三文

二口ノ三兩ト六百拾老文

二口利

老兩貳分三百六文 長十

老兩貳分三百六文 喜右衛門

ノ

御手当金受取之覚

二株分五兩貳文

一金拾兩也 未三月二日 奉請取候

一同五兩也 同六月廿七日 奉請取候

一同八兩也 同十一月廿一日 奉請取候

一同四兩也 申四月五日

入百姓御手当覚 入百姓

庄 十

一金拾五兩貳分

永貳百拾四文貳分

此分貳朱ト五百五十五文

三月二日 内

五兩之内 上納并品々入目引

老兩貳分三百六文 三月三日

老分也 同六日小針氏着代

老分也 同六月渡ス

老兩也

小以ノ三兩三百六文

八百三拾八文 未春上納

ノ三兩貳朱ト三百四十四文

殘老兩三分四百四十六文

五兩之内六月廿七日御受取申候内

貳兩也 七月二日喜野次方實物取合之内江夫長左

衛門へ渡ス

百五十文 検見割本村

五百六拾三文 七軒検見割

壹分也 十月上納

貳分小貳朱也 十月上納

貳朱壹貫九百六十五文 品々入用

ノ六兩貳分三百六十七文 渡ス

四兩也 十一月廿一日

残八兩壹分

四百四十六文之内

奉請取候分

拾壹兩貳分 十一月廿一日迄三朱

指引残而四兩三分貳朱ト四百三文

百六十文 浅川陣屋所諸入用

壹分三百三十貳文 十二月上納

残而四兩貳分ト六百八十壹文

内貳百文 付かし

内四兩壹分貳百文渡ス

残壹分四百八十壹文 中畑上納ニ仕

内貳百八十九文 申春上納

残五百九十三文 庄七分

壹兩壹分也

入百姓

曾右衛門

一金拾五兩貳分ト永貳百拾四文引分

四月十一日渡ス此分貳朱ト五百五十五文

三月二日受取五兩之内

内

壹兩貳分三百六文 上納并品々入目引

壹分也 三月六日小針氏着代渡ス

貳兩也 同月六日渡ス

小以ノ三兩三分ト錢六百六文渡ス

貳朱三百五十三文 未春上納

ノ四兩百五十九文 奉請取候内貳兩貳分之内

貳兩也 未七月晦日渡ス 喜野次方へ渡ス

壹兩貳分也 十一月廿六日渡ス

百五十文 検見割

壹分貳朱小貳朱拾三文 十月中畑村上納分

五百六拾三文 未検見割

壹分 十月上納

貳分小貳朱也 十月上納

貳朱ト壹貫九百六十五文 品々入目

百六拾文 未暮浅川陣屋所諸入用引

壹分貳朱ト拾文 十二月上納

六百三拾五文 多七金方

指引残而老兩貳分貳朱ト貳百拾五文渡方

内

老兩也 十二月廿八日渡ス

壹分ト三拾三文 中畑上納江仕

貳百八拾九文 申三月上納分

残而壹分ト六百七拾八文渡方

三月二日受取五兩之内

残而三分貳朱ト六百三十壹文

六月廿七日

十一月廿五日四兩之内

七兩壹分貳朱ト六百三十壹文之内

奉請取候拾老兩貳分十一月廿一日三朱

ト三百六十文

申四月五日奉請取候

一貳兩也

曾右衛門

内

老兩壹分貳朱也

四月六日渡ス

残而貳分貳朱 渡方

壹分ト六百七拾八文 未暮渡方分

二口ノ三分貳朱ト六百七拾八文

内

老兩壹分五十文 申暮品々上納

指引而壹分百五十貳文 渡過

申十二月十日奉請取候

一貳兩貳朱五百七拾六文

内貳朱小貳朱

壹分百五十貳文過 同月同日濟分

内

残而老兩壹分貳朱小貳朱ト貳百七十貳文

内

貳分小貳朱ト三百廿七文 上納引

貳分也 十二月廿三日渡ス

指引而壹分ト七百廿五文 十二月廿七日渡ス

庄十

申四月五日奉請取候

一貳兩也

内

壹兩壹分也 四月十一日渡ス

残而三分可渡分

外ニ五百九拾三文 未暮渡方分

二口ノ三分ト五百九拾三文

内

壹兩壹分五十文 申暮品々分

指引而壹分貳朱ト貳百三十七文渡過

十二月十二日奉請取候

一貳兩貳朱ト五百七十六文

内貳朱小貳朱

壹分貳朱ト三十七文 同月同日済

残而壹兩貳分小貳朱ト三百三十九文可渡分

内

壹分貳朱ト百五十六文 拾軒三之助若蘇引替ニ付

残而壹兩貳朱ト五百七十三文

十二月晦日渡ス

申年分

一貳朱三百貳拾五文

一貳分也

一壹兩壹分也

一貳百七拾文 古米日雇

一百五十六文 中萱竹 助成買納

一壹分也 庄屋給

一九百文 暑中見 歲暮年給

一五百文 檢見入用 勘定筆墨紙

一貳百八拾八文 新百姓前出 浅川飛脚錢

ノ貳兩貳朱ト貳貫九百三十五文

金ニノ貳兩貳分九十九文

二ツ割

壹兩壹分五十文 庄十

壹兩壹分五十文 曾右衛門

[中畑岡崎長成家文書]

(二) 人口

九九〔延享元年より安永九年迄 白河領人口増減覚〕

御領内惣人数御改増減之覚

延享元子ノ四月御改

一人数合三万貳千五百拾壹人 御領中

内

十月上納

十一月上納分

老万八千四百五拾六人 男
老万三千六百九拾五人 女

寛延三年四月御改

一人数合三万千七百九拾五人

内

老万八千七百七拾四人 男
老万三千六百廿老人 女
指引而三百五拾六人減

老万三千五拾五人 女
指引而四百六拾貳人減リ

明和五年四月御改

一人数合貳万九千九百六拾四人

内

老万六千八百九拾老人 男
老万三千七拾三人 女
指引而拾九人減

宝曆六子四月御改

一人数合三万四百四拾五人

内

老万七千三百三拾四人 男
老万三千百拾老人 女
指引而千三百五拾人減リ

宝曆十三年午四月御改

一人数合貳万九千九百八拾三人

内

老万六千九百廿八人 男

安永三年四月御改

一人数合貳万九千五百八拾五人

内

老万六千五百七拾貳人 男
老万三千拾三人 女
指引而三百七拾九人減

安永九子四月御改より

一人数貳万八千六百五拾六人

内

老万六千三拾四人 男

老万式千六百廿二人 女
指引而九百式拾九人減

減人数メ
三千四百九拾五人也

右者延享元年より安永九年御改迄御領中ニ而減人之寛付也

〔中野目 円谷善人家文書「安永九年大庄屋手控帳」より〕

一〇〇〇〔寛保二年 中野目組須乗村宗門御改帳〕

(表紙)

「寛保二壬戌年

中野目組須乗村宗門御改帳

差上ケ申手形之事

一宗門御改之儀男女共老人茂不殘如左之御帳面ニ引合証拠
印形仕并宗旨寺之証拠判為仕候通少茂偽リ無御座候自然
御法度之宗門之由訴人於有之者近キ好身五人組ニ迄曲事
ニ被 仰付候事

一宗門之儀ニ付何之不審ケ間敷義又者其宗旨之法儀ニ無御
座相替執行仕候者御座候ハ、打寄念ヲ入詮儀可仕候少茂
あやしき躰之者於有之者急度可申上候若隠置後日ニ相
知申候ハ、何様ニ茂曲事ニ被 仰付候事

附宗門之儀年中十二ヶ月之内老ケ月者御代官御改残ル
十一ヶ月ハ大庄屋月次ニ無懈怠相改可申候事

一御帳面之人数男女共ニ老人茂不殘書附申候若シ老人成共
隠置申候ハ、庄屋五人組等迄如何様ニ茂曲事ニ可被 仰
付候事

右之通為後日手形仍而如件

寛保二壬戌年

中野目組須乗村

惣 百姓

組頭

五右衛門

同

孫兵衛

庄屋

孫右衛門

差上ケ申手形之事

一今度宗門御改ニ付如左之帳面ニ老人々々之証拠印判仕候
通拙僧共且那紛無御座候若御法度之宗門之者有之候由訴
人御座候ハ、何時成共拙僧共罷出申訳ケ可仕候新且那之
儀者根本之宗旨随分致穿鑿其上証人相立可致契約候右之
起相違有間敷者也仍而如件

中野目組大畑村真言宗

清雲山 法楽寺

寛保二壬戌年

白川領三城目村曹洞宗

清林山 澄江寺

同領同村 天台宗

南台山 景政寺

五人組頭

孫次兵衛

一家老軒人数老人男

三人女

一家老軒人数七人内四人男

三人女

一家老軒人数四人内式人男

勘兵衛

一家老軒人数六人内四人男

式人女

一家老軒人数四人内三人男

老人女

次右衛門

一家老軒人数四人内式人男

式人女

五人組頭
磯右衛門

一家老軒人数三人内式人男

老人女

六兵衛

一家老軒人数老人男

利兵衛

一家老軒人数老人男

伝四郎

一家老軒人数三人内老人男

式人女

喜左衛門

一家老軒人数五人内四人男

老人女

太次兵衛

一家老軒人数八人内三人男

五人女

平右衛門

一家老軒人数四人内三人男

老人女

吉兵衛

一家老軒人数五人内四人男

老人女

弥惣次

一家老軒人数四人内老人男

三人女

五人組頭

庄右衛門

一家老軒人数式人内老人男

老人女

加左衛門

一家老軒人数七人内四人男

三人女

伊右衛門

一家老軒人数五人内式人男

三人女

五人組頭
源右衛門

一家老軒人数三人内老人男

老人女

惣兵衛

孫兵衛
同 五右衛門

一家老軒人数四人内三人男

老人女

市兵衛

庄屋 孫右衛門
〔須乘 酒井正敏家文書〕

一家老軒人数三人内老人男

老人女

長兵衛

一〇一 〔天明二年 滑津組須乘村宗門人別天台宗御改

一家老軒人数三人内式人男

老人女

伊兵衛

帳〕
〔表紙〕
「天明二年 陸奥国

組合之外

一家老軒人数四人内式人男

式人女

組頭 五右衛門

實
十一月五日 三册之内 白川郡

一家老軒人数五人内式人男

式人女

組頭 孫兵衛

指上申手形之事

一家老軒人数四人内式人男

式人女

庄屋 孫右衛門

一宗門御改之儀男女共ニ老人茂不残如左之御帳面ニ引合証
抛印判仕并宗旨寺之証抛判為仕候通少茂偽リ無御座候自
然御法度之宗門之由訴人於有之ハ近キ好身五人組ニ至迄
曲事ニ可被 仰付候事

惣人数百老人内五拾九人男

四拾式人女

右之通相違無御座候以上

寛保二壬戌年

須乘村組頭

一宗門之儀ニ付何ぞ不審ケ間敷儀又ハ其宗旨之法儀ニ御座
相替執行仕候者御座候ハ、打寄念を入兪議可仕候少茂あ
やしき躰之者於有之ハ急度可申上候若隠置後日ニ相知申

候ハ、何様ニ茂曲事ニ可被 仰付候事

附リ宗門之儀年中十二ヶ月之内一ヶ月ハ御代官御改残

ル十一ヶ月ハ大庄屋月次ニ無懈怠相改可申事

一御帳面之人数男女共ニ老人茂不残書付申候若老人成共隠

置申候ハ、庄屋組頭五人組等迄如何様ニ茂曲事ニ可被

仰付候事

右之通為後日手形仍如件

天明二寅

十一月五日

組頭 五右衛門 ㊦

庄屋 孫右衛門 ㊦

大庄屋 野木平右衛門

惣百姓 ㊦

指上申手形之事

一今度宗門御改ニ付如左之御帳面ニ老人々々之証拠印判仕

候通拙僧且那ニ紛無御座候若御法度之宗門之者有之由訴

人御座候ハ、何時成共拙僧罷出申訳可仕候新且那之儀者

根本之宗旨随分致穿鑿其上証人相立可致契約候

右之通相違有間敷者也仍如件

白川領三城目村天台宗

天明二年寅十一月五日

南台山 景政寺 ㊦

一景政寺 ㊦ 天台宗歳五拾八忠歳 ㊦

同寺 ㊦ 同宗歳四拾五 女房 ㊦

同寺 ㊦ 同宗歳拾九養子忠吉 ㊦

同寺 ㊦ 同宗歳拾五 女房 ㊦

一景政寺 ㊦ 天台宗歳五拾 儀八 ㊦

同寺 ㊦ 同宗歳四拾貳 女房 ㊦

同寺 ㊦ 同宗歳四ツ 弥吉 ㊦

此者巳四月中養子仕候

此者巳四月中養子仕候

一景政寺 ㊦ 天台宗歳四ツ伊之八 ㊦

同寺 ㊦ 同宗歳貳拾 母 ㊦

此者卯二月中当御領両田村新歳娘ニ縁付参リ申候

人数合八人内男四人

女四人

御改

寅十一月五日

御改

川口友左衛門様

〔須乗 酒井正敏家文書〕

一〇二〔天保十三年 須乗村人数増減相調書上帳〕

(表紙)

「 天保十三寅年

人数増減相調書上帳

三月

増人之覺

白川郡

須乗村」

丑御改

一家数拾三軒

人数六拾九人内男三拾五人

女三拾四人

寅御改

一家数拾三軒

人数七拾三人内男三拾八人

女三拾五人

此もの丑八月中出生仕候

吉兵衛二男

福次郎

亀十七男

義三郎娘

さき

増減差引

四人内男三人 増

女一人

一馬式拾式疋

牛無御座候

此もの丑十一月中出生仕候

右之通人数増減并牛馬相調書上申候処相違無御座候以上

此もの丑十二月廿日出生仕候

弥右衛門二男

伊之八

天保十三寅年二月

此もの寅正月十七日出生仕申候

メ四人内男三人

女一人

減人無御座候

塙

御役所

組頭

弥右衛門

庄屋

弥市右衛門

〔須乗 酒井正敏家文書〕

一〇三〔文政十一年 明岡村人数御改帳〕

(表紙)

「文政十一戊子年

当村人数御改帳

五月

奥州石川郡

明岡村

┌

一百姓本人百五人

右家内男女上下合百五人

内

男五拾貳人内

六人

六拾歳以上

貳拾九人拾五歳以上

拾七人 拾五歳以下

女五拾三人内

五人

六拾歳以上

貳拾六人拾五歳以上

貳拾貳人拾五歳以下

惣人数俗男女合百五人

右者当村人数從御公儀様御改被 仰付候由被 仰渡当月相

改之人数書付差上申候処聊相違無御座候若相違仕候ハ、何

分之越度ニ茂可被 仰付候以上

文政十一戊子年五月

明岡村組頭

伊左衛門◎

庄屋

円谷茂平◎

〔中町 円谷重夫家文書〕

一〇四〔慶応三年 明岡村・同新田村家数人別増減差引

書上帳〕

(表紙)

「慶応三卯年

家数人別増減差引書上帳

石川郡明岡村

同新田村

┌

覚

去寅年

明岡村

一家数貳拾貳軒

一人數百四拾老人

内男七拾九人

三十四疋

女六拾貳人

ノ

当卯年

一家数貳拾貳軒

一人數百三拾八人

内男七拾八人

女六拾人

差引而

家数去寅同斷

人數三人減

此訊

一縁付出貳人 内 男壹人

女壹人

一死失人 女壹人

右者当卯家数人別増減差引書面之通相違無御座候以上

卯

明岡村

長百姓

新之助[㊦]

組頭

五兵衛[㊦]

同

市郎兵衛[㊦]

庄屋見習

庄 三[㊦]

庄屋

茂惣平[㊦]

覚

去寅年

一家数三軒

一人數十九人

内男九人

女十人

当卯年

一家数三軒

一人數十九人

内男九人

女十人

ノ

差引而

増減無御座候

右者当卯家数人別増減差引書面之通相違無御座候以上

卯

長百姓

重左衛門[㊦]

明岡新田村

組頭米 八俵
庄屋 茂惣平^印

小名浜

御役所

〔中町 円谷重夫家文書〕

一〇五〔天保二年・天保三年 大畑村宗門帳控〕

「天保二卯年三月

天保三辰年三月

宗門帳控

大畑村

天保二年三月 宗門帳控 大畑村〔作表〕

家主	持高	男	女	計	摘要
專右衛門吉	一〇・四七〇 ^石	四	一	五	
久右衛門	一三・八七	二	五	七	
市郎兵衛	一〇・四七	五	二	七	
松右衛門	一五・三三五	二	三	五	
松右衛門	一〇・四七	一	二	三	
松五衛門	七・八五三	二	一	三	
弥四郎	一三・八七	四	五	九	
富八郎	一〇・四七	一	四	五	
甚十郎	一〇・四七	二	二	四	
弥衛門	一〇・七五	三	二	五	

家主	持高	男	女	計	摘要
留三郎	一五・五七五	二	四	六	
善次郎	七・八五三五	二	一	三	
甚太郎	一〇・四七	一	一	二	
藤五郎		二	一	三	
嘉藏		一	一	二	
合計		七	七	一四	惣家数 一六軒

天保三辰三月 宗門帳控 大畑村〔作表〕

家主	持高	男	女	計	摘要
久右衛門	一三・八七	二	四	六	
一郎兵衛	一〇・四七	二	二	四	
松右衛門		二	四	六	
松藏		二	二	四	
弥五右衛門		二	一	三	
弥四郎		四	五	九	
富八郎		一	三	四	
甚十郎		三	二	五	
弥右衛門		三	二	五	
富三郎		三	二	五	
長右衛門		二	一	三	
甚太郎		二	一	三	
熊太郎		三	一	四	
嘉太郎		一	一	二	
藤五郎		二	一	三	
合計		四	六	一〇	惣家数 一六軒

〔大畑 青木政義家文書〕

一〇六〔貞享四年 石川郡中畑村人数馬数書上〕

(表紙)

「貞享四年

石川郡中畑村

卯ノ五月

中畑村庄屋
惣四郎
同 長左衛門

万 御用 留 書 帳

卯ノ五月廿二日ニ書上ル控

卯正月十一日

岡崎長左衛門
└

人数之覚

中畑村

一五拾四人

男十四人

活斗内

一惣人数八百拾式人

内廿四人

男十四人

本百姓四軒

内

三拾人内

男十三人

水吞六軒

六百人

本百姓百拾老軒庄屋共ニ

馬六疋

駄

平八内

内

三百三拾式人

女男

一八拾五人

男三十式人

本百姓拾三軒

式百拾式人

水吞

五拾八軒

内六十四人内

男十九人

水吞五軒

内

百貳拾四人

女男

廿老人内

男十九人

一惣馬数百八拾八疋

馬拾六疋

駄

内

内 老疋 拾五疋

駄

百八拾四疋

本百姓分

一百廿三人

男四十四人

寺内

内

拾八疋

駄

内五拾式人内

男四十八人

本百姓十八軒

内

百六拾六疋

駄

内三十一人内

男十九人

水吞八軒

右之通り相違無御座候以上

馬数廿四疋 内

廿四疋 駄

なべ内

一九十三人

なべ内

内八拾貳人内
男五十壹人
女三十壹人

拾壹人内
男七人
女四人

馬廿三疋 内
壹疋 尻
廿貳疋 駄

一百三十六人

内九拾人内
男五十壹人
女三十九人

四拾六人内
男廿五人
女廿壹人

馬廿九疋内
壹疋 尻
廿七疋 駄
壹疋 水吞馬

一百九十三人

内

百六十三人内
男九十三人
女七十一人

三十人内
男十九人
女十壹人

馬六十三疋内
六疋 尻
三疋 水吞馬
五十四疋 駄

一百廿八人

内

八十五人内
男四十七人
女三十八人

四十三人内
男十五人
女十八人

馬廿七疋内
壹疋 尻
廿六疋 駄

人数ノ八百十人

本百姓拾五軒

水吞四軒

根宿

本百姓十六軒

水吞十四軒

新田

本百姓三十軒

水吞八軒

原宿

本百姓十五軒

水吞十軒

内

六百人内

式百十人内
男百廿四人
女八十八人

一惣馬數百八十八疋

内

百八十四疋

十八疋 尻
百六十六疋 駄

四疋 駄

中畑村

寺社方門前

一人數拾人

内

八人

四人内

男三人
女一人

一馬數貳疋

内

ノ

壹疋 尻
壹疋 駄
壹疋 当才

寺分

本百姓百十壹軒

水吞五十八軒

本百姓分

水吞分

本家三軒

内前貳軒

右之通相違無御座候以上

貞享四年

卯ノ七月七日

中畑村庄屋

一下々田老敵歩

孫兵衛

長左衛門

つぶら い

一下々田三敵歩

甚衛門

同 惣四郎

同所

苗なしノ覚

一下々田式敵歩

長次郎

□□□□

一本田老敵歩

介太郎

つつみ内

一下々田老敵歩

同人

□□□

一下々田老敵歩

惣 七

からいけ下

一下々田式敵歩

長 七

つつみ内

惣 七

こやち

一下々田式敵歩

小右衛門

一下々田老敵歩

仁兵衛

下あらた

小右衛門

そり太

一下々田四敵分

彦三郎

一下々田老敵歩

長十郎

とりや

彦三郎

そり太

一下田式敵拾五歩

平左衛門

一下々田老敵歩

久太郎

たきやち

平左衛門

たきやち

一下々田老敵拾五歩

与 惣

一下々田式敵歩

小 介

つぶら い

与 惣

からいけ下

一下々田老敵歩

同 人

一下々田老敵拾五歩

勘二郎

つつえ内

同 人

てんいた

勘二郎

一下々田三敵歩

ノ三反老敵拾五歩

兵三郎

〔中畑 岡崎長成家文書〕

一〇七〔享保十三年 堤村宗門御改帳〕

〔表紙〕

「享保十三年 戊申年

陸奥国石川郡

宗門 御改帳

堤村庄屋

人別御改三月三日藤助殿

兵藏

宗旨御改四月十六日宮沢猪兵衛様

〔作表〕

家族統柄	氏名	年齢	備考
家主	吉之丞	元 三	
男子	彦八房	元 六	
男子	喜八	元 五	男
男子	金六	元 八	女
同			計 五
家主	甚五右衛門	元 七	
女子	女 喜惣兵衛	元 三	
男子	三郎兵衛	元 七	
同			計 五
同			計 四
同			計 一

家主	伯父	男子	伯父	角兵衛	家父	同弟	同伯父	同弟	次郎八	与惣次	次郎八	家主	貞右衛門	彦右衛門	家主	甚五右衛門
女 次郎左衛門房	文 久右衛門助	弥 市房	女 八右衛門	伯 彦七	角 彦八	彦 七	六 兵衛	六 助	と ち	と よ	女 房	母 治	次郎八	ゆ 貞右衛門	女 彦六	女 彦右衛門
元 三	元 七	元 三	元 三	元 七	元 三	元 七	元 三	元 七	元 二	元 五	元 元	元 元	元 三	元 六	元 三	元 六
	計 五	四月病死		計 四	正月病死		計 八		計 八	西二月病死	正月病死		計 六		(計二) 去年別家	
	四			三			四		四				三			

第4編 近 世

甥 女同男 家 子 子 主	同 治 弟 家 女 子 助 主	五 郎 兵 衛 女 子 叔 父 主	德 兵 衛 男 子 家 子 主	同 男 子
孫 伯 太 女 彦 兵 兵 次 郎	ま 女 治 市 寸 房 助 郎	よ 女 五 郎 兵 衛 ね 房 衛 房	く 藏 女 弥 女 德 之 十 房 郎 兵 衛	次 太 郎 郎
兵 六 二 五 元 五 三	二 四 五 七	二 五 五 六 七 六 六 三	二 七 六 三 三 三 三	五 〇
計 七 四 三	計 四 二 二 六月三日病死	計 七 三 四	計 六 三 三	計 四 三 一 八月病死

男 仁 父 家 三 子 郎 主	女 男 女 家 子 子 子 主	茂 甚 同 男 家 兵 三 郎 弟 子 主	五 父 家 三 郎 主	孫 伯 女 男 家 郎 父 子 子 主
仁 女 久 祖 仁 兵 左 衛 三 衛 房 門 母 郎	た 次 た 女 母 彦 つ 郎 人 房 郎	女 茂 甚 甚 女 母 甚 房 衛 郎 丞 房 郎	女 母 十 五 房 郎 郎	女 孫 寸 太 伊 房 郎 ね 郎 右 衛 門
四 四 四 五	五 八 二 六 七 〇	三 五 五 四 三 三 三 三	五 五 三 三	〇 七 八 二 三
計 五 三 二	計 六 二 四 七月病死	計 七 四 三	計 四 二 二	計 五 三 二

同忠兵同同兵半男 兵衛藏藏 男子男子男子 子弟子子子藏子	父家 主	弥兄 次 平	父祖家 父主	女家 子主	男女家 子子主	男家 子主	家 主	家 主
卯茂忠松で六女半女母兵兵 兵藤兵之郎兵房藏房兵右衛門藏		女弥母忠市七 次次母右右之 房平門門門丞		ま六 さ右衛門	喜ち女次 三や房兵 治う衛	次女 郎房衛	八 兵衛	
六二二三七二六六三三九六七		三三三三三三三三		三三三三三三三三	六六三三三三三三	三三三三三三三三		
總計 二五 六八 四七		計 六 四 二		計 二 一 一	計 四 二 二	計 三 二 一		

右之もの男女共耶蘇宗門切支丹ニ而無御座候猶又御穿鑿ニ付大庄屋庄屋組頭五人組頭立合当村中男女老入茂不殘銘々宗旨吟味仕少茂不審成義無御座候則帳面書載且那寺判形并自分之判形於御眼前仕差上申候処実正ニ御座候尤此帳面外申もの老人も無御座候切支丹宗門御制禁御高札之趣常々無油断僉議仕候弥以切支丹宗門ハ不及申上不断之行跡疑敷者御座候ハ、早速御注進可仕候又者他所より不思議成もの往來仕候ハ、不隱置可申上候自今以後右之もの共之内宗門違乱之訴人於御座候而私共罷出急度申訳ケ可仕候右之趣相違之儀御座候ハ、其身從類ハ勿論私共迄如何様之曲事にも可被仰付候為後日連判仍如件

享保十三戊申年四月十六日

石川郡堤村五人組頭

次郎兵衛

同 次郎八

同 五三郎

組頭 彦次郎

庄屋 兵藏

三城目組大庄屋

伊藤十五郎

丹下清兵衛殿

平野兵左衛門殿

宮沢猪兵衛殿

七之丞父

一 忠右衛門

同人 母

同人兄 弥次平

弥次平 女房

年五拾六

年四拾八

年式拾九

年式拾

四人卯之春欠落仕候

彦次郎甥

一 孫八

午之春欠落仕候

次兵衛弟

一 五郎兵衛

去秋欠落仕候

右之もの共今以行衛相知不申候方々相尋申候へ共尋出次第

御注進可申上候以上

組頭 彦二郎

庄屋 兵藏

〔梶 吉田清作家文書〕

中三月

年五拾四

年式拾六

丹下清兵衛殿

平野兵左衛門殿

宮沢猪兵衛殿

右帳面之男女切支丹耶蘇宗門ニ而無御座候悉拙僧旦那ニ而

御座候猶又切支丹宗門殿御穿鑿統被 仰付ニ旦那共吟味仕

候得共少茂行跡疑敷もの無御座候ニ付御眼前ニ而宗旨請合

之判形仕差上申処実正ニ御座候万一宗門違乱之訴人於有之

ニハ拙僧罷出急度申訳可仕候自然不審成者御座候者早速御

注進可申上候右之趣相違之儀御座候者拙僧如何様之曲事ニ

茂可被 仰付候為後日仍如件

奥州石川郡堤村

本寺奥州石川町乘蓮寺

真言宗三宝寺 栄寿

享保十三 戊申年四月十六日

丹下清兵衛殿

平野兵左衛門殿

宮沢猪兵衛殿

差上申一札之事

一〇八〔嘉永七年八月 矢吹宿大福寺字内人別帳〕

(表紙)

「 嘉永七年八月 大福寺宗門人別帳

」

大福寺檀中人別

一 当所代々 本家伊勢屋 亀之助

寅ノ五人内三人男

貳人女

伊勢屋 市次郎

寅ノ五人之内三人男

貳人女

大和屋 鉄藏

寅ノ七人之内三人男

四人女

鶴屋 金作

寅ノ老人男

鶴屋 長吾

寅ノ八人之内貳人男

六人女

古川屋 祖名吉

寅ノ五人内貳人男

三人女

一 寅老人女病死 富士屋 七郎衛門

寅ノ四人之内貳人男

貳人女

下扇屋 庄藏

寅ノ六人之内三人男

三人女

下若木屋 丈右衛門

寅ノ七之内三人男

四人女

大野屋 角衛門

寅ノ三人之内老人男

貳人女

柏屋 利助

寅ノ七人之内四人男

三人女

会田 源之助

寅ノ老人男

長沼屋 与之吉

寅ノ拾老人之内三人男

- 一 八人女
龜屋 弥三郎
- 一 寅ノ六人之内三人男
三人女
冬木屋 六右衛門
- 一 寅ノ五人之内三人男
三人女
棚縁屋 半兵衛
- 一 寅ノ三人之内老人男
三人女
扇屋 与右衛門
- 一 寅ノ四人之内式人男
三人女
角若松屋 伝藏
- 一 寅ノ九人之内式人男
七人女
鈴木屋 伝兵衛
- 一 寅ノ五人之内式人男
三人女
一寅老人病死 三春屋 次右衛門
- 一 寅ノ四人之内老人男
三人女
佐野屋 兵四郎
- 一 寅ノ七人之内五人男
三人女
石川屋 丹藏
- 一 寅ノ五人之内式人男
三人女
戎屋 才助
- 一 寅ノ三人之内老人男
三人女
大黒屋 源助
- 一 寅ノ拾人之内五人男
五人女
若松屋 常吉
- 一 寅ノ三人之内老人男
三人女
叶屋 吉十
- 一 寅ノ九人之内四人男
五人女

一 寅老人病死 大祿屋 与左衛門

寅ノ拾貳人之内五人男

七人女

一 青木屋 兵七

寅ノ八人之内四人男

四人女

一 青木屋 伊之助内

寅ノ貳人女

一 上若松屋 覚吉

寅ノ五人之内貳人男

三人女

一 当所新来 藤田屋 惣吉

寅ノ六人之内貳人男

四人女

一 当所代々 上白木屋 徳兵衛

寅ノ九人之内老人男

八人女

一 上若松屋 仙吉

寅ノ九人之内五人男

四人女

一 戎屋 久藏

寅ノ四人之内貳人男

貳人女

一 川崎屋 文吉

寅ノ拾人之内六人男

四人女

一 松屋 荣作

寅ノ四人之内三人男

出松屋 丑松

一 寅ノ三人之内貳人男

老人女

一 白木屋 松藏

寅ノ四人之内貳人男

貳人女

一 柴田屋 りの

寅ノ老人女

一 寅老人病死 仙台屋 いゑ

寅ノ五人之内貳人男

三人女

一 老人病死 新白木屋 仙助

寅ノ四人之内忒人男

忒人女

あき

若花屋 留吉

寅ノ五人之内忒人男

四人女

寅ノ忒人之内忒人男

忒人女

近江屋 亀吉

寅ノ七人之内四人男

海老屋 栄五郎

寅ノ五人之内忒人男

三人女

一寅年病死
寅ノ忒人女
三人女
りゑ

岩城屋 竹藏

寅ノ忒人之内忒人男

忒人女

隠居葛屋 仙助

寅ノ八人之内四人男

四人女

米屋 新吉

寅ノ九人之内五人男

四人女

新大黒屋 平藏

寅ノ五人之内忒人男

三人女

小禄屋 半藏

寅ノ七人之内四人男

三人女

会津屋 孫右衛門

寅ノ七人之内四人男

三人女

住吉屋 茂左衛門

寅ノ忒人之内忒人男

忒人女

碓屋 良助

寅ノ四人之内忒人男

三人女

一 本筑前屋 喜右衛門

寅ノ七人之内四人男

三人女

一 寅年女老人病死旅筑前屋喜左衛門

寅ノ六人之内老人男

五人女

新蔦屋 吉次郎

寅ノ四人之内老人男

三人女

中野屋 喜平次

寅ノ六人之内四人男

式人女

米筑前屋 喜平

寅ノ六人之内三人男

三人女

村田屋 忠五郎

寅ノ四人之内三人男

老人女

戎屋 仁右衛門

寅ノ七人之内三人男

一 四人女

伊勢屋 文次郎

寅ノ四人之内三人男

老人女

大工 吉藏

寅ノ四人之内式人男

式人女

一 寅老人病死 伊勢屋 市藏

寅ノ五人之内老人男

四人女

鶴屋 民藏

寅ノ四人之内老人男

三人女

越後屋 拾藏

寅ノ六人之内式人男

四人女

越後屋 吉藏

寅ノ六人之内三人男

三人女

角屋 茂吉

寅ノ三人之内老人男

三人女

越後屋

半五郎

寅ノ五人之内三人男

三人女

一寅年老人病死

横川榮之助

寅ノ拾人之内五人男

五人女

会田久左衛門

寅ノ六人之内式人男

四人女

会田与市郎

寅ノ五人之内式人男

三人女

佐久間半助

寅ノ六人之内三人男

三人女

大野佐市

寅ノ五人之内老人男

四人女

一 笹山豊助

寅ノ六人之内三人男

三人女

寅百姓本人

惣人数四百六人之内

百八拾式人男

式百貳拾式人女

惣家数八拾軒之内

七拾老軒本家

八軒無田

寺老ヶ寺

牛頭天王

御靈宮 格社神主

小林宮内

寅ノ七人之内四人男

三人女

右之帳面之男女切支丹耶蘇宗門ニ而無御座候悉拙寺共檀那ニ御座候猶又切支丹宗門敵敷御穿鑿被 仰付候ニ付面々檀那共吟味仕候へとも少も行跡疑敷者無御座候宗旨請合之判形仕差上申処実正ニ御座候万ニ宗門違乱之訴人於有之者其

檀那寺へ罷出急度申訳可仕候自然不審成者御座候へ、早速御注進可申上候

右之趣相違之儀御座候へ、拙僧とも如何様之曲事ニも可被仰付候為後日依而如件

本寺陸奥国白河郡小田河村

宝積院末

大福寺

実賢 花押

高木平右衛門殿

井村左源太殿

切支丹宗門并悲田不受御制禁之儀例年被 仰渡候趣奉畏候右之宗門之者老入茂無御座候宗旨人数帳面之通聊相違無御座候猶又自今以後無油断僉議不審成者於有之者早速可申上候依而如件

嘉永七年寅八月

矢吹宿五人組

亀之助

覚右衛門

平次衛門

高木平右衛門殿
井村左源太殿

七郎衛門

丈右衛門

与左衛門

喜左衛門

源左衛門

組頭

平山孫衛門

大野文藏

同

長尾半藏

庄屋

佐久間半助

同

笹山豊助

大庄屋

会田久左衛門

〔本町 熊田集人家文書〕

一〇九〔天保十二年十一月 宗旨手形明岡村〕

〔表紙〕

「 天保十二年辛丑十一月

宗旨手形之事

」

白川御領矢吹村孫三郎妹

まつ 年貳拾四

此者当村兵七仲立ニ而当村甚歳妻ニ呼取申度奉願上候

白川御領泉崎村明学院娘

さつ 年拾八

此者当村源四郎仲立ニ而当村佐治右衛門妻ニ呼取申度奉願

上候

一白川領関和久村雲月寺 熊田市右衛門 年五拾四歳

女房 年四拾八歳

一右同宗同寺 つね 年拾七歳

一右同宗同寺 しげ 年拾三歳

一右同宗同寺 熊田伊之八 年拾歳

右之宗旨人数聊相違無御座候召仕之者共召抱候節宗旨寺之

儀致吟味請人手前入念請状ニ書入取置申候依而如件

天保十二辛丑十一月

熊田市右衛門

④ 花押

御奉行所 老通

御代官所 老通

明和元年申十月

中畑村組頭

六人印

庄屋 兩人印

一一〇〔明和元年十月 白河藩領中畑村縁組願離別届

書〕

乍恐以書付奉願上候事

乍恐以書付御届ケ申上候事

中畑村太郎之

女房 年拾八

右之者去未ノ十月縁付参申候所不縁ニ而離別仕候ニ付白川御領関和久村親吉左衛門方江相返申候依之御届ケ申上候以上

明和元年申十月

中畑村組頭

六人印

庄屋 兩人印

御奉行所江老通

御代官所江老通

乍恐以書付奉願上候事

中畑村六之丞梓

代吉 年拾九

此者白河御領中畑新田兵右衛門方江中野目組神田村勘之丞仲立ニ而掣養子ニ遣し申度奉願上候

中畑村七郎兵衛梓

藤吉 年拾九

此者笠間御領仁井町彦兵衛方江当村庄右衛門仲立ニ而掣養子ニ遣し申度奉願上候右奉願上候通御慈悲之上被仰付被下置候ハ、難有可奉存候以上

明和元年申十月

中畑村組頭

六人印

庄屋 兩人

御奉行所老通

御代官所老通

以書付御届ケ申上候

岡崎長左衛門娘

はつ 年拾八

右之者三年前以前午ノ正月白川御領蕪内村磯次郎方江縁付遣し申候所不縁ニ而離別仕候尤何方よりも何之相障り申儀無御座候ニ付引取申候依之御届ケ申上候以上

明和元年申十月

中畑村組頭

六人印

庄屋 兩人

御奉行所老通

御代官所老通

〔中畑 岡崎長成家文書宝曆十三年「願書控書留帳」より〕